

# 千年の森便り No.216

2021.09.26

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄

編集 真鍋昌義

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 9月20日（月、敬老の日）晴 個別活動

コロナ禍が収まらず、緊急事態宣言が延長されている状況から会としての活動は自粛し、20日（敬老の日）に各自のテーマに沿っての個別活動をしました。

参加はナラ枯れ調査に福島、成沢、センサーカメラの管理と植物観察に秋元、キノコの観察に大原、坂本に加え幕張の山口和代さんと兄弟二人の親子3人組の総勢8名でした。

快晴微風の心地良い日に恵まれたのに、全体活動が出来ないのは残念でした。

期待のキノコは台風被害の枯木に群生するカイガラタケなどの固い種類は多かったものの、ハラタケやテングタケの仲間は少なく、夏のキノコと秋のキノコの端境期に当たってしまったようです。そんな中で島内初記録種が発見されました。詳しくは第一発見者の山口さんの記事と画像をご覧ください。（坂本）



### ○ナラ枯れ調査

成沢、福島2名で、巨木林エリア、ホテイ岬を中心に、今年になってナラ枯れにより葉が枯れたコナラの位置と枯れの状況を記録しました。記録の対象としたのは、1本の幹の葉がすべて又はほとんど枯れたものとし、株立ちの一部の幹の葉が枯れたものは、株立ちの本数と葉が枯れた幹の本数を記録しました。



島内で最初に枯死したコナラ



葉が枯れたコナラ



カシノナガキクイムシが 葉が枯れたコナラに  
窃入したコナラ



マーキング

なお、カシノナガキクイムシが穿入してフラスが出ていても葉が枯れていないもの、昨年うちに葉が枯れて枯死したものについては調査の対象外としました。

昨年から今年にかけての観察から、1本の幹の葉がすべて（ほとんど）枯れたコナラは、翌年の春には葉が開せず枯死するケースが多いことがわかっています。

調査の結果、葉がすべて（ほとんど）枯れたコナラは83個体確認されました。これらの個体はそのまま枯死する可能性が高く、今年の春までに枯死が確認された20個体と合わせると、ナラ枯れにより100個体以上のコナラが枯死すると予想されます。（福島）

## 〇千年の森できのこ探し **カエントケ発見！！**



このきのこ何？検討中(坂本)



末はきのご博士か？(坂本)



ナナフシ見つけ(坂本)

今回約半年ぶりに豊英島の活動に参加させていただきました。個人の活動というよりは森の散策がしたいと思い親子で参加させていただきました。思ったよりキノコが少ないと坂本さんもおっしゃっていましたが、ちょっと少ないなとは思いつつ散策していました。それでも末息子はひとつ見つけるたびに大声で知らせてくれました。

そんな中、ナラ枯れした木の根元にキノコがあるなと見ていたら、手前の方に真っ赤なキノコを発見。図鑑とかで見覚えがあるあのキノコかな？と近づいてみたら、カエントケのように見えました。まさか～と思いつつ坂本さんに聞いたら、「そうだね。カエントケだね。僕も初めてだよ」とおっしゃっていて、坂本さんが初めてとのことにも驚きました。

お昼に福島さんからお話を伺った中で、

- ・ナラ枯れは全国的に広まって関東にも増えてきたこと
- ・これから関東いろんなところにカエントケは出てくるのではないかと
- ・幕張もマテバシイが沢山生えているのでカエントケは出てくるかもなどいろいろ教えていただきました。

都市公園でたくさん出てきた時にまた別の問題が発生するかもしれませんが、今回は初めてカエントケを見れたことが純粋にうれしかったです。枯れたコナラの根元にカエントケありがとうございました。(山口和代さん)



鋸使ってマダケ切り



カエントケ(坂本)

注) 山口さんが発見されたカエントケは豊英島初確認種です。下記のブログ抜粋の通り猛毒です。今後ナラ枯れの増加に伴い、カエントケの増加が懸念されますが、「触らない！」よう厳重に注意しましょう。(真鍋)



山口權史君が描いたカエントケ

(参考) さわらない！食べない！「カエントケ」に注意(東京大学大学院富士癒しの森研究所ブログ 2020年9月2日)

猛毒のキノコ「カエントケ」が村内で発生しています。このキノコは、汁に触れただけで皮膚がただれますので、見かけでも手で触れないようにしてください。もちろん、食べても猛毒で、カエントケを浸していた水を飲んだだけで死亡した事例もあります。絶対に食べないでください。

カエントケは、地上から発生する真っ赤な棒状のキノコで、しばしば、手の指のようにいくつかの枝に分かれます。時に退色してオレンジ系の色になったものもありますが、怪しいと思ったら、絶対にさわらないでください。

このキノコは、これまで珍しいキノコとされてきましたが、ナラ枯れ病で枯死したコナラの木の周りから高頻度で発生することが知られています。ナラ枯れは、村内では昨年初めて確認され、今年は多くの被害が発生しています。この先、村内で普通にカエントケが見られることが予想されますので、このキノコの姿をよく覚えて、くれぐれもご注意くださいよう、お願いします。さわらない！食べない！「カエントケ」に注意。



## ○9月の花と実

コナラ伐採地

保護柵の中は全体が緑いっぱい、生き生きしているように見えました。ヤマハギは木全体に明るい紅紫色で小さな蝶形の花をつけていました。トゲトゲしたタラノキは幹の先端に円錐花序をだし、白色の小花をたくさんつけていました。コバノガマズミは赤い実つけ、枝がたわむほどになっていました。保護柵の外側でたくさんの実をつけているヤマボウシ、初めて保護柵の中で1個確認しました。



ヤマハギ



コバノガマズミ



ヤマボウシ



ヒヨドリバナ



オトコエシ



シラヤマギク

草本で目を引いたのがヒヨドリバナとオトコエシで、存在感たっぷりに咲いていました。控えめに咲いていたのはシラヤマギク、ノコンギク、アキバギクでした。（秋元）

## ○ヤマボウシの種子散布は何か？

地面に長い果柄の付いた赤い実が沢山落ちていました。大粒のサクランボに似ていますが、その正体はヤマボウシの実です。

この実はほんのりと甘味があって美味しいものですから、新鮮そうなものを拾って口にしましたが、熟し過ぎの為か甘味が飛んでしまって酸味ばかり強く美味しくありませんでした。

木に残ったものなら甘いだろうと、幹を揺すって落としても地面に落ちた衝撃で実がつぶれる程に柔らかく、口にしてもやはり酸味があって食用に不向きでした。

それにしても何故こんなに多くの実が残っているのか疑問が湧きました。樹上ではサルが好みそうだしカラスやヒヨドリも啄みそうです。落下したものはタヌキやハクビシンが食べると思うのに、何故でしょうか？

何かに食べてもらわなければ種子散布ができません。種子散布の担い手は何か？ 新しい観察のテーマが出来ました。（坂本）



ヤマボウシの実



ヤマボウシの実がいっぱい(福島)



ヤマボウシの実を落とす

## ○センサーカメラの動物たち（7月18日から9月20日までの64日間）

### 吊橋付近のカメラ

頻繁に記録されたのはハクビシンです。キョンは2回ありました。

ニホンザルは初夏にかけて出産するようです。そして赤ちゃんは一月もすればよちよち歩きができるようです。この赤ちゃんも5月20日に記録された子ザルのように来年には、わんぱくな様子を見せてくれるかもしれません。



ニホンザル親子

ニホンジカ

不明種(9月11日5時17分)

不明種で今までとは異なる姿をした動物の全体をとらえた記録が1回ありました。写真は不鮮明で同定は難しいです。今回は動画設定ができていませんでした。次回に期待し、動画設定を加えましたので同定が可能かもしれません。

CAM1：ハクビシン45回、ニホンアナグマ12回、ニホンザル4回、ニホンジカ4回、  
キョン2回、タヌキ?1回、ハシブトガラス1回、不明種3回

### 吊橋上のカメラ

島に渡ってくる姿をとらえようと、吊橋起点部の門扉（ネットフェンス）にカメラを向け吊橋の転落防止柵に設置しました。残念ながら、門扉付近の垂れ下がった植物の枝葉の揺れに反応して、電池切れを起こしたと思われる。記録できたのはニホンアナグマ?が島から出て行こうとしている姿の1回だけでした。

CAM2：ニホンアナグマ?1回（秋元）

## ○駐車場の草刈り

島外の駐車場では夏草が伸びて膝の高さを超えるほどでした。来月の活動は外部講師をお招きしてのキノコ観察会で、人気の行事ですから前もって駐車スペースを確保しておく必要があると思い、午後から草刈りをしました。

2時間の作業でアプローチと畔の部分まで含めて刈り終わりましたから、駐車し易くなったと思います。（坂本）



草刈り前

## ○自然薯栽培のパイオニアに出会う

臨時活動の参加者が待ち合せした農産物直売場で、自然薯のむかごはまだ売り出していないのかと尋ねたところ、居合わせた男性が「11月になってからだね」と答えてくれました。

どこかで見た顔と思ったら地元で自然薯栽培を初めて手がけ、今も生産組合長をしている小堀和平さんでした。これまで直接お目にかかった事はありませんでしたが、収穫期になると新聞やTVの取材を受ける方ですから、その記憶が残っていたようです。

小堀さん曰く、40年前は畑で栽培した自然薯など食えるかと言われたものが、今では地元の産業として定着している事、後継者不足に悩んでいる事、ウイルスフリーの技術で品質が向上した事など伺いましたが、先方も多忙の様だし長く引き止められないので、途中で立ち話を切り上げざるを得ませんでした。



特に印象的だったのは地元愛の強さで、自慢の自然薯も都市の市場に出荷するのではなく、地元販売に徹しているのは、これを目当てにする人を地元呼び込む為だそうです。

尚、小堀さんはヤマユリの増殖やヒガンバナの里作りにも尽力されています。

機会があれば講演会を開いて色々な話をお聞きしたいと思いました。(坂本)

### お知らせ

○次回の活動日は10月17日(日)です。公開行事として秋のきのこ観察会が予定されていましたが、島内にはナラ枯れの枯死木が多く、参加者の安全を確保できないことから、**公開行事としては実施しません。**集合は、通常どおり9:30に直売所です。必ずヘルメットの着用をお願いします。